

地域を愛し、自立と共生ができ、未来を創る子ども

# 直東学園ニュース

直江津東中学校区すこやかネットワークだより

令和4年度 第4号  
令和4年9月25日発行  
〈発行・編集〉  
直東学園 事務局  
〒942-0041  
新潟県上越市安江 282-1  
(上越市立直江津東中学校内)  
TEL : 025-543-2729  
FAX : 025-543-4150  
E-mail : higashi-cs@jorne.or.jp

## すこやかネットワーク学力向上研修会

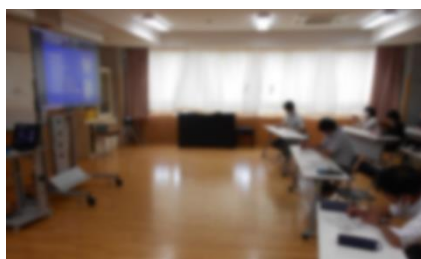
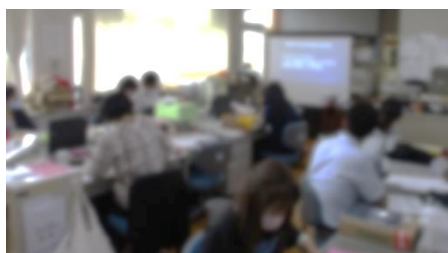
昨年度、すこやかネットワークの各校校長が集まった中で、学力向上を図るには、その土台として安全・安心な児童生徒同士の関係性が重要であり、そのための集団づくりや人間関係づくりが一層必要ではないかとの議論に至りました。そこで、学力向上部会では上越教育大学の赤坂真二教授から「集団づくりからの学力（資質・能力）向上」について講演会を企画し、各校の主体的・対話的で深い学びが一層実現できるよう研修の機会を設けました。

6月6日（月）の研修会当日は、各校でのリモートによる研修となりました。赤坂教授からは「効果的な学校の条件」という演題でお話いただきました。その中で日本のES（効果的な学校）は7つの習慣があるということです。

- 1 家庭学習指導
- 2 管理職のリーダーシップと同僚性の構築、実践的な教員研修
- 3 小中連携教育
- 4 言語に関する授業規律や学習規律の徹底
- 5 学力調査の活用
- 6 基礎基本の定着重視と少人数指導、少人数学級の効果
- 7 放課後や夏季休業期間中の補習

また、赤坂研究室が学校支援プロジェクトで推進している「ステーション授業構想」についても紹介していただきました。

翌日からの教育実践に向かう我々教職員の心に火を付けてくださった研修会でした。



### <参加者の声>

- ・学力向上は、「学級づくり」と「学校風土」が大事だと学んだ。また、親和的な学級集団が学力向上につながると考えた。言語に関する規律の徹底とタイムリーで効果的なフィードバックを心掛けていきたい。
- ・教師が子どもに与える影響は大きく、教師が互いに連携をとって学校をつくっていく姿勢が大切だと改めて感じた。
- ・効果的な教育活動のためのフィードバックについて学ぶことができた。特に「生徒の過程を褒める」を意識していきたい。

## 北諏訪小学校の取組

今年度は『書く』力を高め、自分の考えを豊かに表現する授業づくり」を研究主題としています。子どもたちの書く力や表現する力を高めるために、以下の取組を行っています。

### ○連絡帳日記・短作文

1日の振り返りを、「自分の気持ちを入れる」「擬音語を使う」「かぎを使う」など、定着させたいスキルを取り入れながら書かせています。短時間で文章を書けるようになったり、他の書く場面でもスキルを活用したりする姿が見られるようになりました。2学期からは、短い意見文を書かせるなど、テーマを広げて取り組んでいきます。

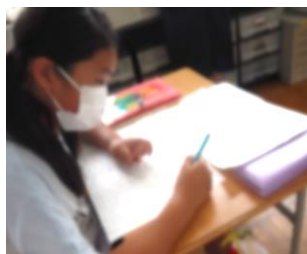
### ○トークタイムの実施

テーマに合わせてグループで意見交流をすることで、話す力・聞く力を向上させ、表現力を高めることを目的としています。同じ意見をもつ仲間とグループを組むことで、発言に消極的な児童も、積極的に活動に参加できます。話す・聞く態度だけでなく、相手に質問したり話を広げるために新しい視点の話題を提案したりする姿が見られるようになりました。今後は、意見交流の前後に書く活動を取り入れることで、自分の考えを書く力の向上にもつなげていきます。



### ○「書く」活動を取り入れた授業公開研修

書く力を高めるための教師の働きかけや手立てを明確にした授業を提案・公開し、その効果を子どもの姿から検証していきます。授業後の協議会で、有効だった手立てを共有したり、改善点から新たな手立てを見出したりすることを通して、全職員の授業力向上を図っています。



## 保倉小学校の取組

保倉小学校の今年度の合言葉は「自ら考えよう動き出そう」です。それを受けて「子どもが主体的に学ぶ授業づくり」に取り組みます。「主体的に学ぶ」を「子どもたちが共に考え・動き出す姿」とし、その姿を目指して授業を行います。

### ○授業研修

全職員で授業を参観し、指導や児童の様子について協議しています。授業を組み立てる際に、



協同的な学びの場を意図的に設定し、子どもの学びを広げ深めていきます。協議会では、手法等にとらわれず、子どもの姿を中心に語り合っています。その中でどのような姿が「共に考え動き出す姿」なのか、1年を通して積み上げていきたいと考えます。

### ○生活科・総合的な学習の時間の充実

地域の皆様のご協力のおかげで、毎年充実した活動をさせていただいています。体験活動の中から気付き考えたこと、問題解決に向けた話し合いを大切にしながら活動を進めています。



### ○ちょい研の実施

職員それぞれに得意分野があります。ICTばかりではなく、指導方法のちょっとしたコツやネタなどを伝え合う時間をとります。また、個人的に研修会等で得た知識や教材活用法についても伝達・共有し、保倉小の職員全員の授業力レベルアップを図ります。

## 有田小学校の取組

昨年度までは、「社会性の育成」を中心課題とし、実践を重ねてきました。今年度は、引き続き「社会性」の育成に取り組むとともに、自律心や規範意識、思いやり等も含む「人間性」も加えて、「豊かな人間性・社会性の育成」を研究主題として実践を進めています。

さらに今年度は、「人との豊かなかかわり合いを通して、自分の考えをつくる子どもの育成」を研究の副題とし、学習や特別活動の中で「主体的に学ぶ子どもの育成」を目指して、以下のような取組を行っています。

### ○授業での人間性・社会性の育成

子どもが主体的に学ぶ授業に向けて、各学級で日々実践に取り組んでいます。授業では、特に次の2点を意図的に取り入れて実践します。

①子ども一人一人が自力解決しようとする発問や教材提示の工夫

②ペアでの相談やグループでの話し合いを取り入れ、「考えの交流」の場をつくる

また、すべての子どもが学習内容を理解できるように、学習のユニバーサルデザイン化や学習ルール（「学習の約束5か条」等）の定着にも取り組みます。

### ○特別活動での人間性・社会性の育成

4年目となる全校ソーシャルスキル集会「ありペン・たーペン心の時間」を実施し、学年の発達段階に合わせて、他者とのあたたかいかわり方や望ましい言動を学びます。

縦割り班活動では、一人一人が自分の役割をもち、班のために役立つことで、自己有用感を高めていけるように、活動内容を工夫していきます。さらに活動後に、振り返りやメッセージ交換等を行い、自分と友達とのかかわりに目を向けられるようにしていきます。



## 春日新田小学校の取組

当校は、今年度も「認め合い進んで学び合う子の育成～ステーション授業構想による集団づくり～」を研究主題として校内研修を進めています。

### ○<かかわり方スキル>を活用した授業づくり

研究主題に迫るために、道徳や SST 等のステーション授業で、児童が<かかわり方スキル>のよさを知り、協働的な学びの土台となる【良好な関係】が育つようにしています。また、各教科でスキルを使った交流学习を設定したり、学校生活の中で使ったりしながらスキル定着を図っています。そして、教師から児童、または児童同士による【肯定的フィードバック】によって、自他の承認感を高め、思考が広がり、深まることを目指しています。

また、全職員で公開授業研究・協議会を行い、児童の思考が深まったり変容を見取ったりしながら、目指す子どもの姿を具現できているか協議しています。児童の学びを



【2年生公開授業の様子】  
確かなものにするとともに、教師の授業改善につながります。

### ○学カテストや、学期末テストの分析

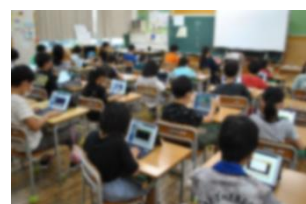
学カテストや、学習指導改善調査の分析を「全職員で」行い、児童の苦手を把握し2学期以降の重点単元を設定しました。また、学期末テストを分析し、2学期以降の学習に生かしていきます。

### ○「スタディー&アウトメディアウィーク」の実施

年に3回実施しています。宿題や自主学習だけでなく、空き時間の過ごし方を工夫することで、学年の目標時間を達成したり、メディアと上手に付き合ったりできるように、一人一人がめあてを立てて取り組んでいます。また、継続して自主学習ノートの掲示を行い、自主学習への意欲も高まっています。

### ○ICT 活用のミニ職員研修 (ちょこっと Google) の実施

ICT をより効果的に活用できるように、定期的にミニ研修会を実施しています。【iPad を使った活動】 iPad の基本的な操作から、授業場面での活用の仕方、WEB Q-U の分析方法などについて研修して、学校生活の中で活用しています。



# 直江津東中学校の取組

令和4年度の直江津東中学校は、次の3つの目標の達成を目指して頑張ります。

## 〇1つ目は意欲的に学ぼうとする集団づくりです。

現在の東中生徒は授業に落ち着いて取り組んでいます。その基盤となっているのは、生徒同士、生徒と教員、教員同士のよりよい人間関係づくりです。行事や毎日の生活の中で、互いに認め合う場面を作り、つながる場面を意図的につくっていくことで、少しずつ大事に育ててきました。校内では、「アセス」という学校適応感を調べるアンケートを行い、その結果をもとに、一人一人の生徒の様子を見取り、指導に生かしています。

## 〇2つ目は主体的な学びを生み出す授業づくりです。

新しい生活様式の中でも、自分の考えをもち、仲間と意見を交わし合い、より深い学びを目指しています。

また、昨年度から一人一台のタブレットを利用して理解を深めています。



## 〇3つ目は家庭学習・自主学習の習慣づくりです。

今年度は学習委員会がリードして、定期テストの学習時間を増やす呼びかけに加え、ゲームやスマホを使う時間を減らそうとキャンペーンを行っています。クラスごとに学習時間とメディア時間の合計を記録・掲示し、定期テストに向けて、学習時間とメディア時間の変化を意識して取り組んでいます。

ゲームやスマホの使用時間については、日ごろの使い方のルールが大切になります。日常的に使っていると、いざ「学習しよう」というときになっても、なかなか手放せません。使い方のマナーとともに使用時間やルールについてもご家庭で考えていただけるとありがたいです。

# ボランティア活動



【妙高自然の家にて】



【三八の市にて】

直江津東地域青少年育成会議は、学校の教育活動を支援する学園支援本部が中心にボランティア活動を行っています。

今年度も6月に、春日新田小学校、有田小学校の「妙高自然の家での活動」や保倉小学校の「三八の市での学習」でボランティア活動をしました。

また9月は、有田小学校5年生の「家庭科裁縫」でボランティア活動をしています。手が止まっている子や分からないとの声にお手伝いをし、子どもたちとも顔なじみになりました。集中している真剣な姿や出来たと喜ぶ姿が印象的でした。

どの活動でも、生き生きとした子どもたちと触れ合い、とても楽しく、元気をもらっています。



【家庭科裁縫】

# 夏休みこどもつどいの広場

平成29年に、春日新田小学校の学校運営協議会で話題になった「夏休み中に子どもたちの学習をみてもらえる場があるといいね！」がきっかけで始まりました。

有田公民館が主催し、元教員の方々のボランティアを募り、1日2時間5日間、「夏休みの宿題を終わらせちゃおう！」を合言葉に実施されています。

今年度も7月25日（月）から29日（金）までに延べ92人の子どもたちが宿題を持って集まりました。

